

貝全重量は年間一定ではないが、外套膜と貝柱の合計の重さが貝全重量に占める重量の割合は約12%である。殻長8cmの貝全重量は約115g(資料11)であるから外套膜と貝柱の合計の重さは13.8gと計算され、1kgの漁獲量を得るには73個体の採集が必要であると考えられる。後述するように現在の漁獲サイズは8cmを割り込んでいることが考えられるので商品部分を1kg得るための必要漁獲数はまだ多いであろうと思われる。

調査では、かつては操業時間4~5時間で商品部分(外套膜と貝柱)を最高5kg~24kg採集していたことが判明した。

ヒレジャコ、シャゴウについては1日2~3個で、あればとる程度である。水産試験場の調査では昭和58年6月15日に新城島周辺で7名が4時間半泳いでヒレジャコ8個体、シラナミ9個体、そしてシャゴウ2個体であった。聞き取り調査によると以前はシャゴウだけを1日に70~80個体、身だけで27kgを漁獲したことがあった。また10年以上前とのことであるが、ヒレジャコは殻が碇石の原材料として宮崎県へ売れたこともあったために殻は売り、残りの身も1日で20~30kgとったとの報告もあった。また最近では漁場の移動からシラナミが漁獲されることが多いようであるが、これも数量的にはそれ程多くなく正確な数字は判明しなかった。

② シャコガイの生産額と価格

県と石垣市の貝類及びシャコガイの生産額を海面漁業と沿岸漁業のそれらと共に表3に示した。県の貝類の生産額は昭和48年11月には4,400万円程度であるがその後は1億円から2億6千万円までの間を変動し、56年1月及び57年1月は2億円程度で安定している。最高生産額を示した51年1月では沿岸生産額の4.3%、海面生産額の1.8%を占めた。57年1月は沿岸生産額の2.0%、海面生産額の1.1%である。石垣市の貝類の生産額は51年1月の9,700万円(石垣市海面漁業生産額の9.0%)を最高に減少傾向にある。県のシャコガイの生産額は昭和48年11月は4,000万円であり、50年1月9,400万円、51年1月2億3,000万円と増加し、その後は52年1月までは1億円前後であったが57年1月には5,800万円に減少した。昭和51年の最高生産額時では沿岸生産額の3.8%、海面生産額の1.6%であった。57年1月では沿岸生産額の0.6%、海面生産額の0.3%に減少した。石垣市のシャコガイ生産額は大巾な減少傾向にあり、昭和51年1月には8,500万円(石垣市海面漁業生産額の7.9%)であったが、昭和56年1月では約1,700万円にまで減少した。

表3. 海面、沿岸生産額及び貝類、シャコガイ生産額(千円)

調査年月		48. 11	50. 1	51. 1	52. 1	53. 1	53. 11	55. 1	56. 1	57. 1
海面	県	15,234,316	18,581,175	14,828,701	17,375,434	18,438,661	21,557,048	18,823,514	21,314,673	18,784,858
	石垣市	1,235,985	1,066,767	1,070,197	1,878,620	2,007,545	2,557,062	2,336,646	2,760,962	-
沿岸	県	3,221,000	4,948,000	6,148,000	7,213,000	7,819,000	8,264,000	8,452,000	9,798,000	10,072,000
	石垣市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
貝類	県	44,200	107,199	261,316	164,373	183,596	148,701	176,907	200,714	201,371
	石垣市	10,920	7,469	96,662	72,542	-	40,833	46,743	36,226	-
シャコガイ	県	40,040	93,720	231,562	95,891	100,693	107,170	98,665	107,364	58,449
	石垣市	10,920	7,469	85,070	39,611	-	31,515	27,562	16,882	-

(沖縄農林水産統計年報)

シャコガイの価格は表3の生産額と資料9の漁獲量から生産額を漁獲量で除して殻つきの値段に計算し表4に示した。kgあたりの価格は昭和48年11月の83円から51年1月まで1年ごとに約倍となって401円となった。その後も除々に高騰し、55年1月には528円、57年には636円となった。漁獲量の減少から考えると、品薄による高値安定と考えられる。

石垣市の場合も価格の高騰が51年1月にあり、その後は県よりも1~2円安値だが高値安定で移行している。

表4. 統計年報によるシャコガイの価格(円/kg)

調査月日	48.11	50.1	51.1	52.1	53.1	53.11	55.1	56.1	57.1
県	83	217	401	422	468	483	528	584	636
石垣市	70	88	399	421	-	482	530	545	-

(沖縄農林水産統計年報より計算)

聞き取り及び標本船調査での価格を述べるとヒメジャコの場合若干の変動はあるが、島内では商品部分(外套膜と貝柱)が1kg 5,000~6,000円である。しかしながら沖縄本島(那覇)へ送ると8,000~10,000円程度で取引されてるとのことであった。

石垣市での小売価格は石垣市内のスーパーマーケットで7,000~8,000円であった。

他のシャコガイの価格はヒレジャコが1,500~2,000円、沖縄本島(那覇)へ送ると3,000~4,000円(高値)するとのことであった。また不定期ではあるが生きたままで島内のレジヤ-施設に1個体小さいもの1,000円、大きいもの1,500円で取引されている。殻も不定期で売られており、小さいもの250円、大きいもの500円である。シラナミは2,500円で取引されている。シャゴウは以前は売れなかったので自家消費用としていた。八重山では加工用の原材料として使用されることが主なので、仲買によっては買わない人もいるとのことであった。しかしながら最近加工業者が1,500~1,700円程度で入手しているので漁業者からは1,000円以上で売られているものと思われる。晴天時に集めておき蓄養して台風時に沖縄本島(那覇)へ身のみを出荷すると2,000~2,500円で取引されることも聞いた。また小浜島では殻長20cm以上のシャゴウは生きたまま殻ごと1個1,500円で島内のホテルへ納品されている。

オオジャコ・ヒレナシジャコについては、貝殻自体に稀少価値が生じるので別問題であり、漁獲もほとんどないのが現状である。

聞き取り及び標本船調査によるシャコガイの価格を表5にまとめた。

今回の調査により、シャコガイは全種共商品価値があり、またその価格の高ことがうかがわれた。